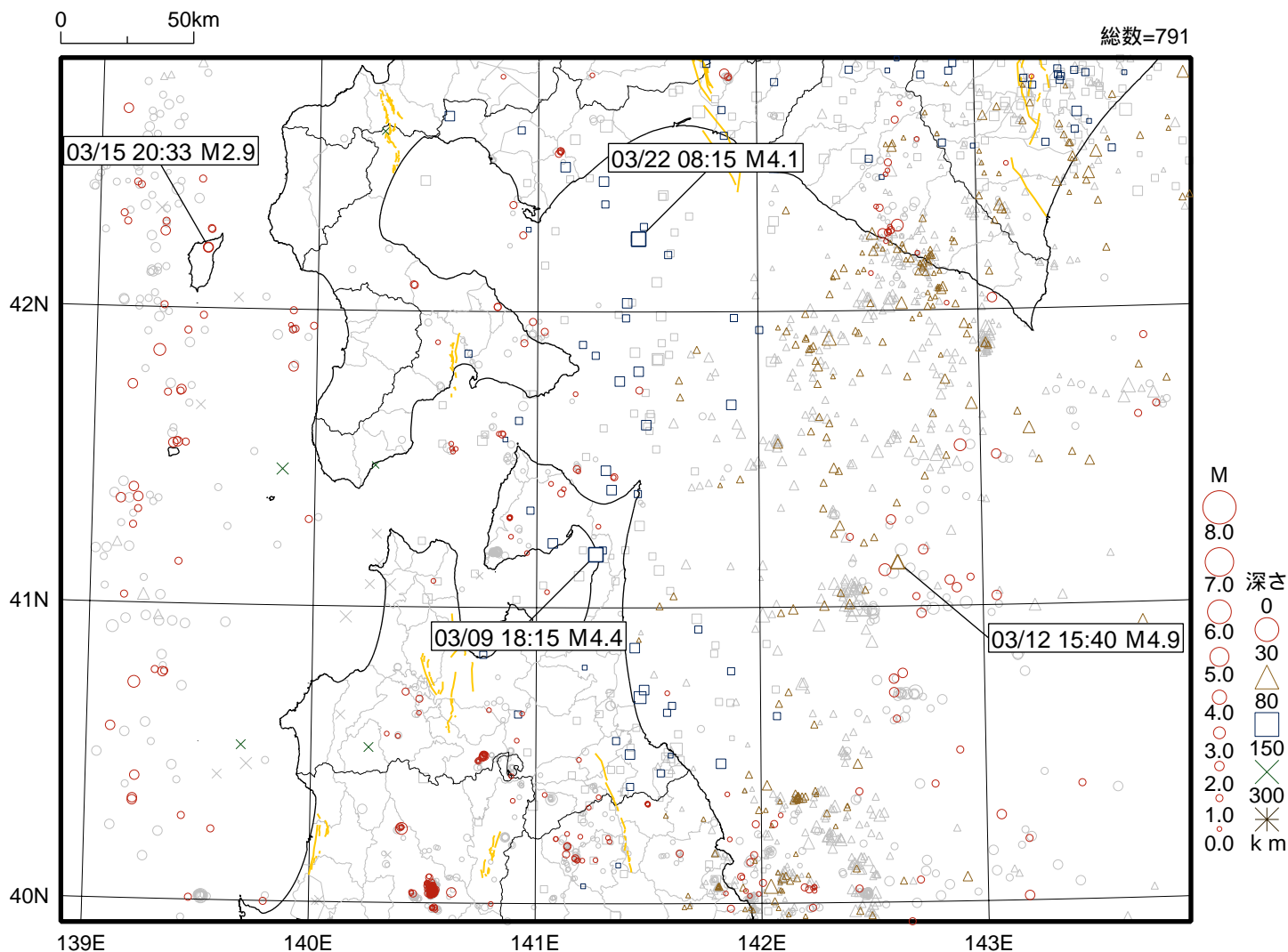


渡島・檜山地方の地震活動図

2018年3月1日～2018年3月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況（2018年3月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（前月は1回）発生しました（「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

12日15時40分に青森県東方沖の地震（M4.9、深さ36km）により、函館市泊町、函館市新浜町で震度2を観測しました。

15日20時33分に北海道南西沖の地震（M2.9、深さ8km）により、奥尻町奥尻で震度2を観測しました。

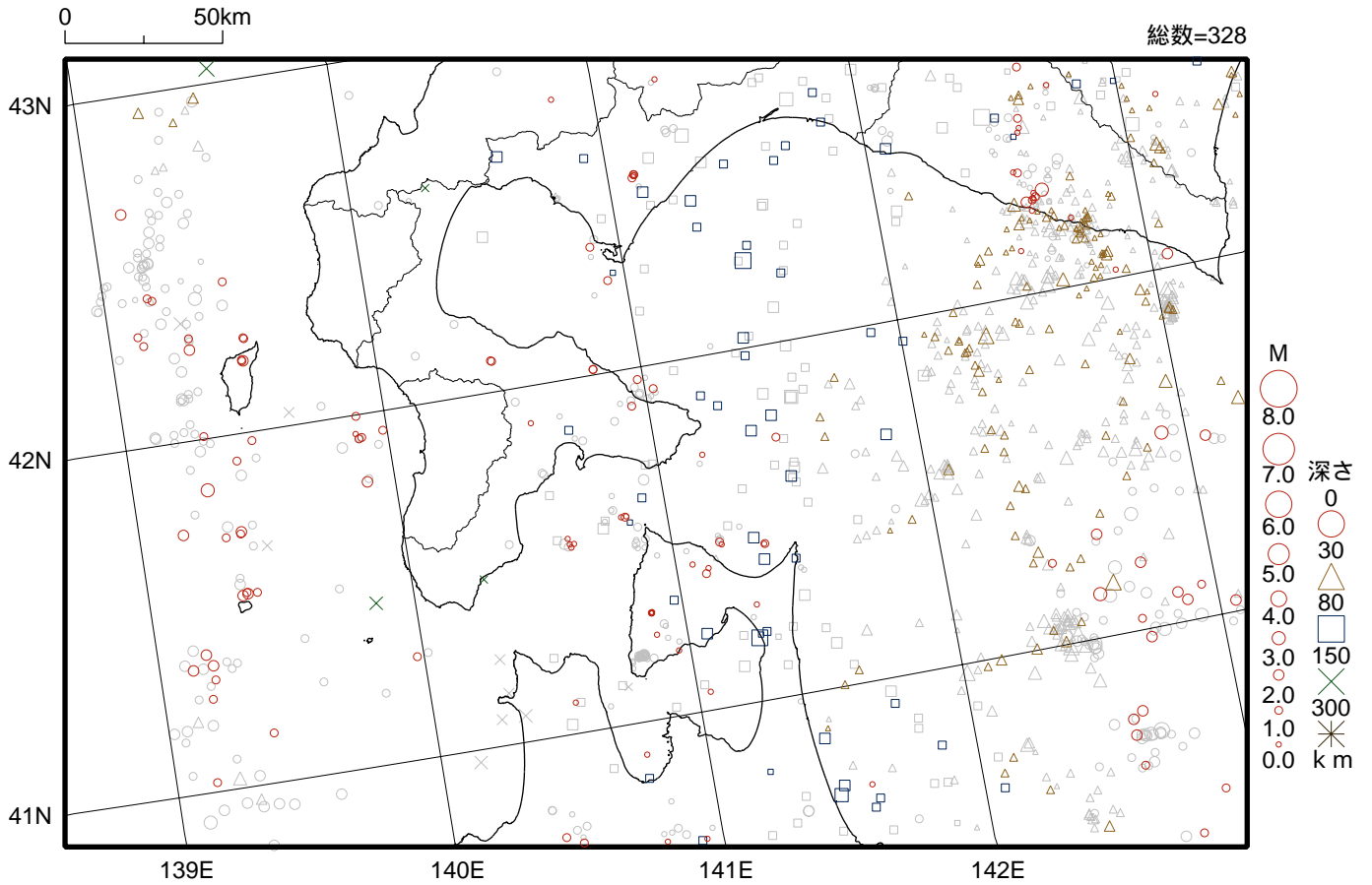
22日08時15分に苫小牧沖の地震（M4.1、深さ98km）により、函館市新浜町で震度2、函館市泊町で震度1を観測しました。

この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。

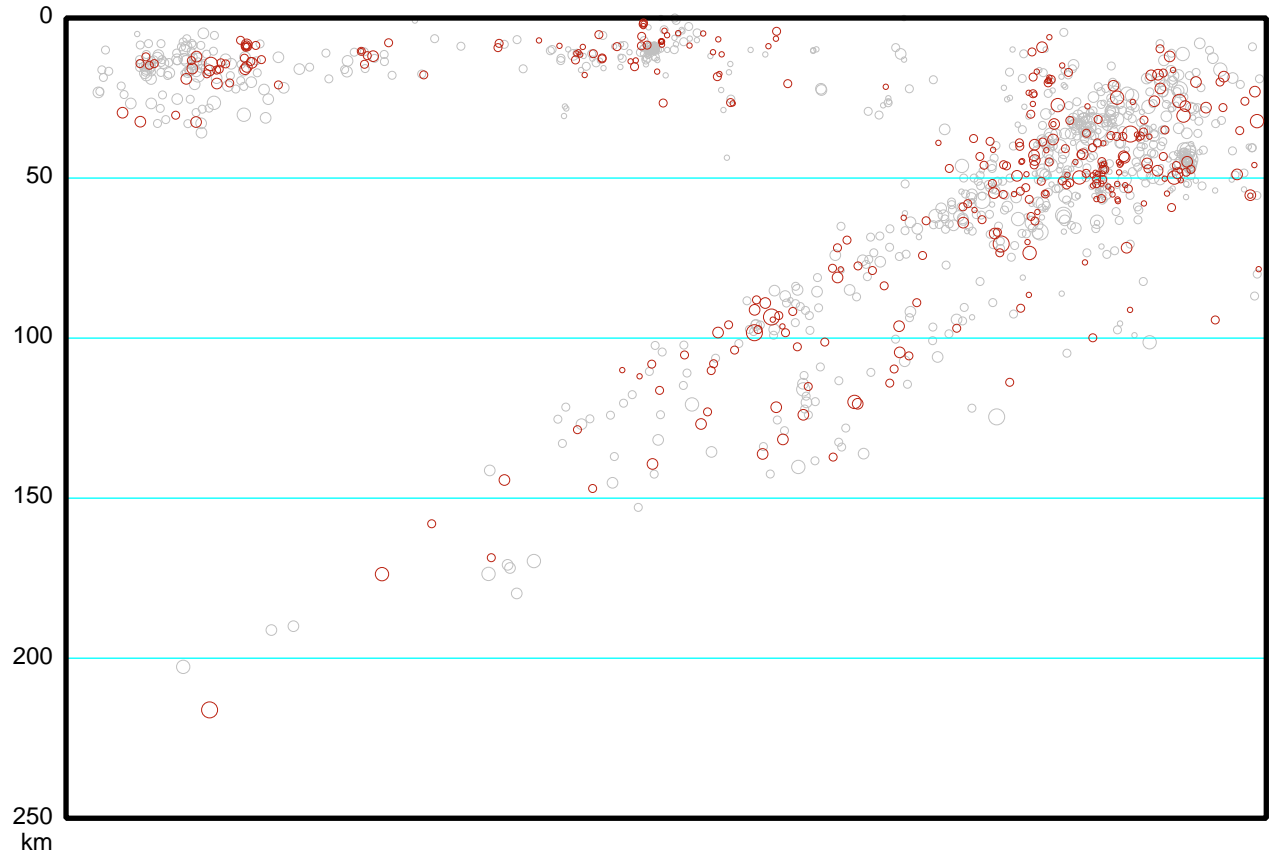
ホームページのアドレスは、「<http://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2018年3月1日 ~ 2018年3月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

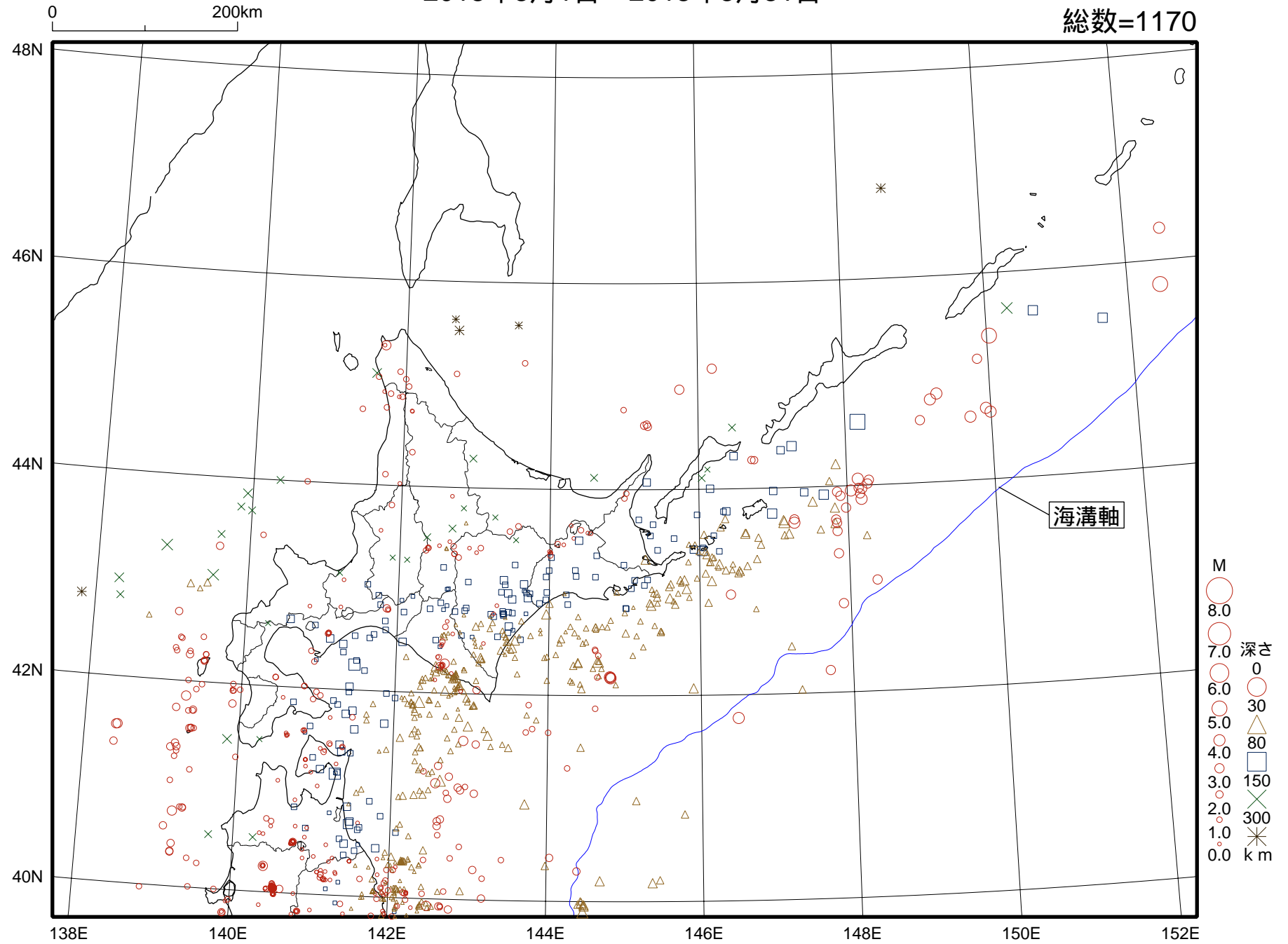
北海道の地震活動図

2018年3月1日 ~ 2018年3月31日

札幌管区気象台

総数=1170

震央分布図



震度 1 以上を観測した地震の表 (2018年3月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2018年 3月 9日 渡島地方	18時15分 震度 1	陸奥湾 函館市泊町 * (13) 函館市新浜町 * (10)	41 ° 10.7 N	141 ° 15.9 E	93 k m	M4.4
2018年 3月 12日 渡島地方	15時40分 震度 2	青森県東方沖 函館市泊町 * (16) 函館市新浜町 * (16)	41 ° 08.9 N	142 ° 37.1 E	36 k m	M4.9
2018年 3月 15日 檜山地方	20時33分 震度 2	北海道南西沖 奥尻町奥尻 * (18)	42 ° 12.2 N	139 ° 29.7 E	8 k m	M2.9
2018年 3月 22日 渡島地方	08時15分 震度 2 震度 1	苫小牧沖 函館市新浜町 * (15) 函館市泊町 * (07)	42 ° 14.7 N	141 ° 27.4 E	98 k m	M4.1

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

セントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

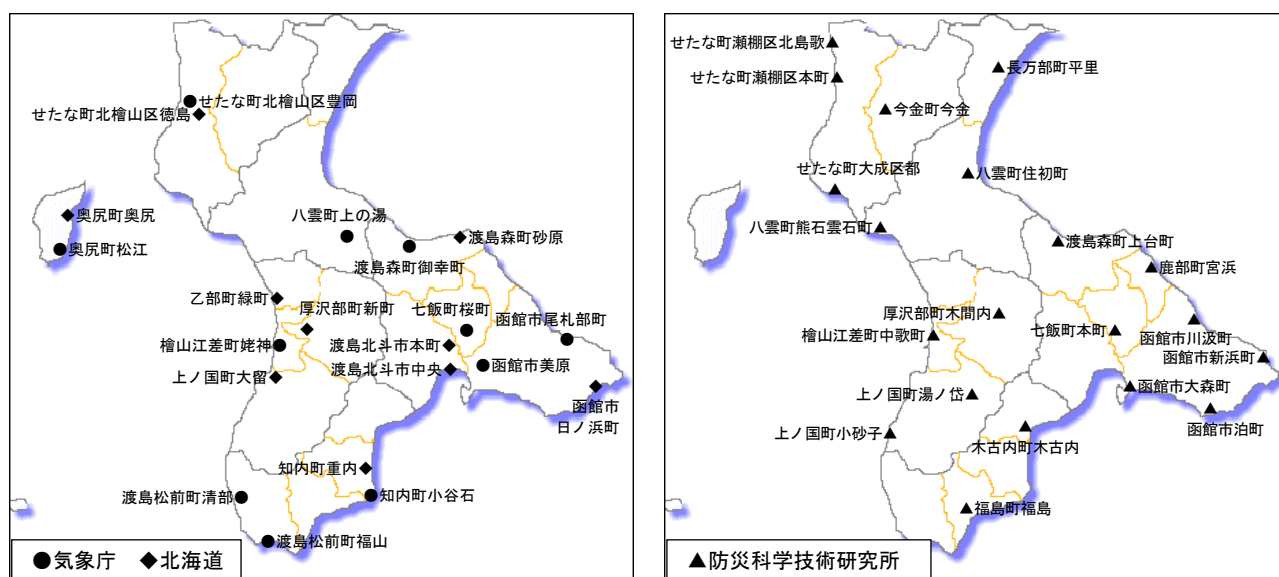
()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

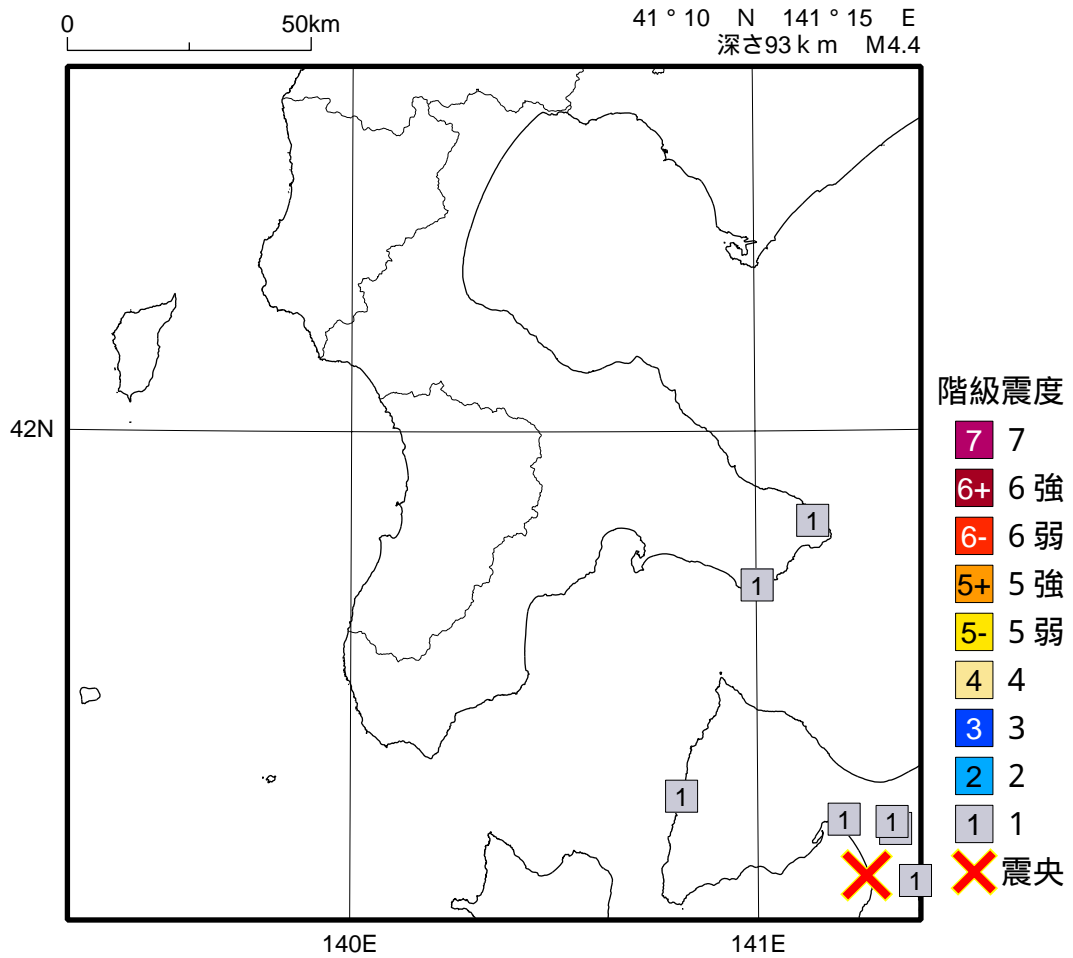
計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

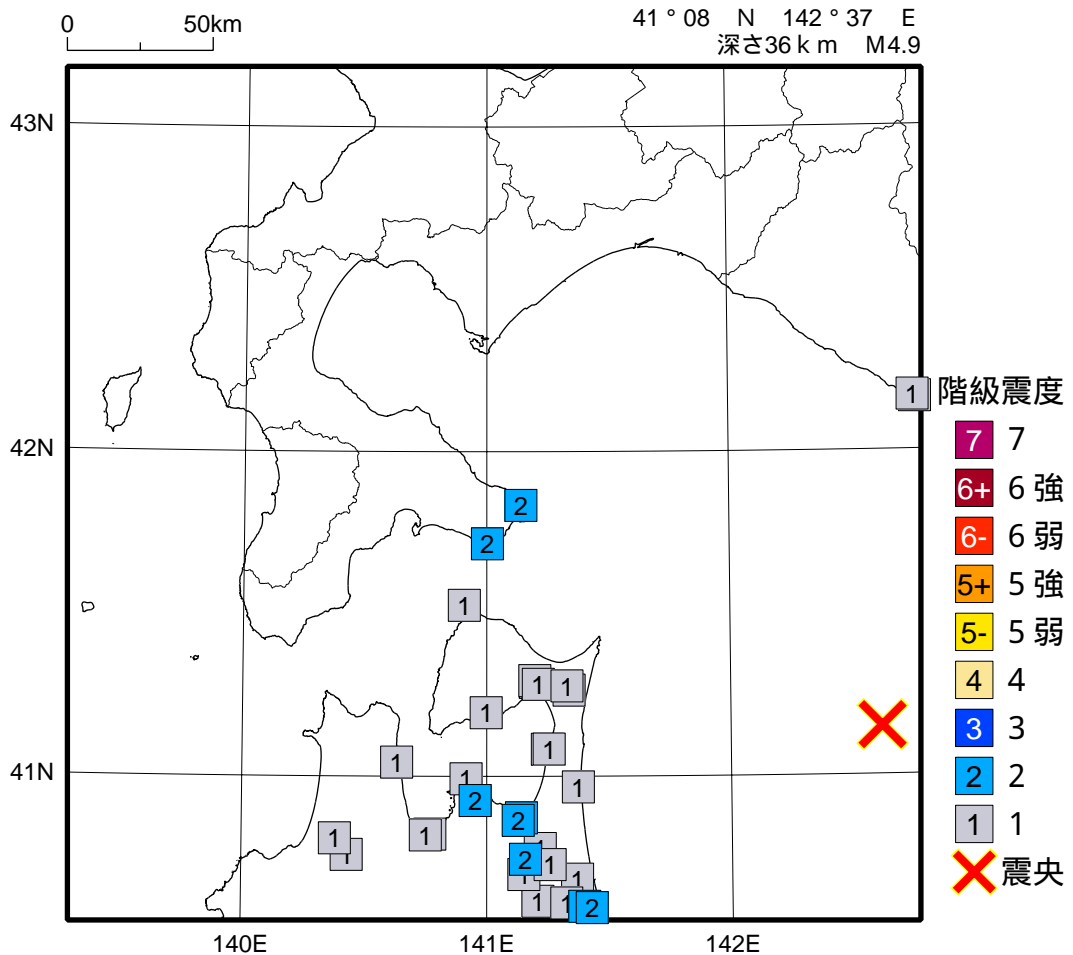


渡島・檜山地方の震度観測点配置図

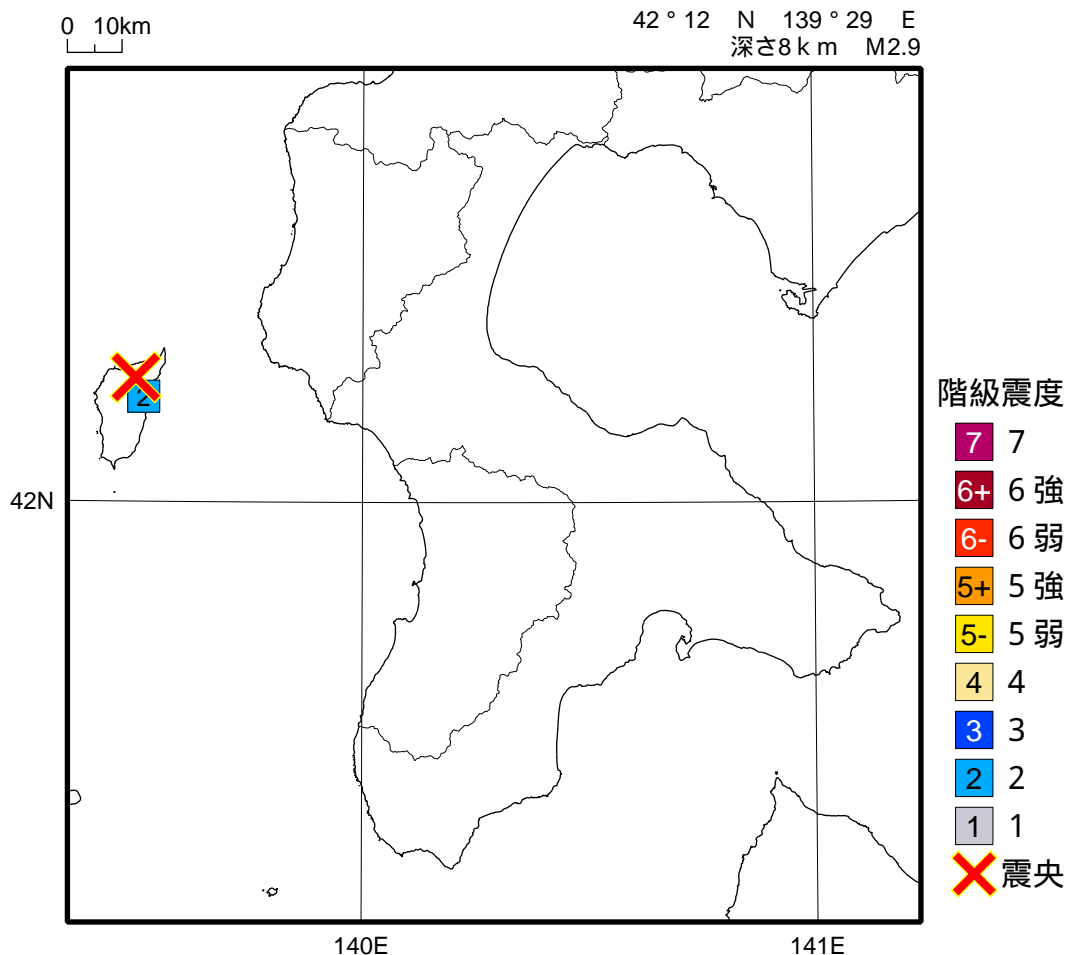
2018年 3月 9日18時15分 陸奥湾の地震の震度分布図



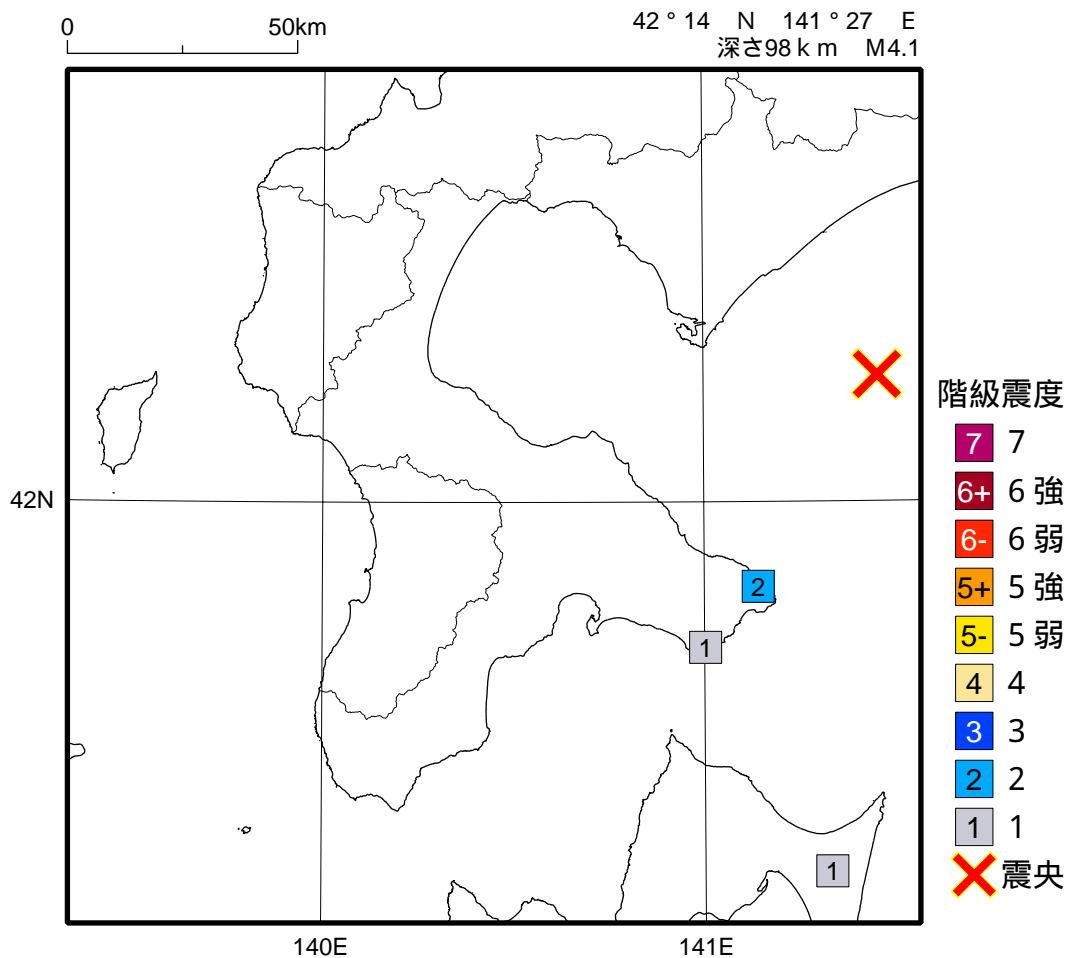
2018年 3月12日15時40分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2018年 3月15日20時33分 北海道南西沖の地震の震度分布図



2018年 3月22日08時15分 苫小牧沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～異常震域～

一般的に、地震の揺れは震源に近い場所ほど大きく、震源から遠い場所ほど小さくなります。しかし、深い場所で発生する地震（深発地震）では、震源に近い場所より遠い場所の方が大きく揺れる場合があります。

この原因は、地球内部の岩盤の地震波の伝わりやすさが違うためと考えられています。深い場所で地震が発生した場合、震央周辺では地震波が減衰しやすい部分を伝わって届くのにに対し、震源から遠く離れた場所でも地震波が減衰しにくい海洋プレートを伝わって届くと、その場所の揺れは震央周辺の揺れより大きくなります（図1）。

この現象は「異常震域」と呼ばれ、東北地方で最大震度3を観測した北海道北西沖の地震（深さ265km）や、北海道で最大震度4を観測した京都府沖の地震（深さ374km）などで見られました（図2）。

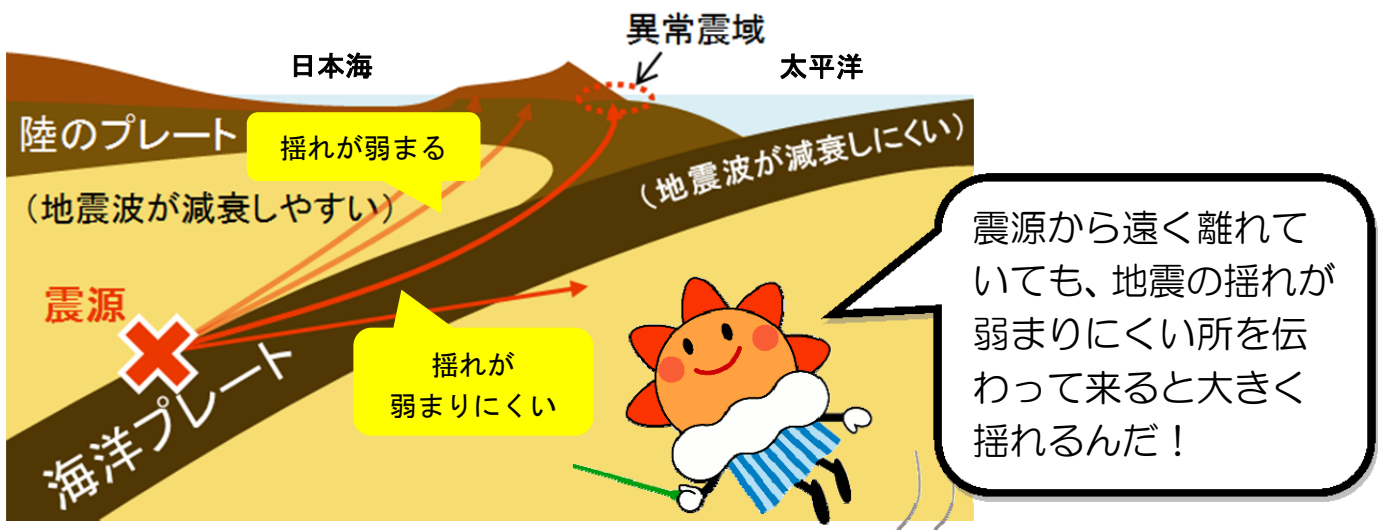
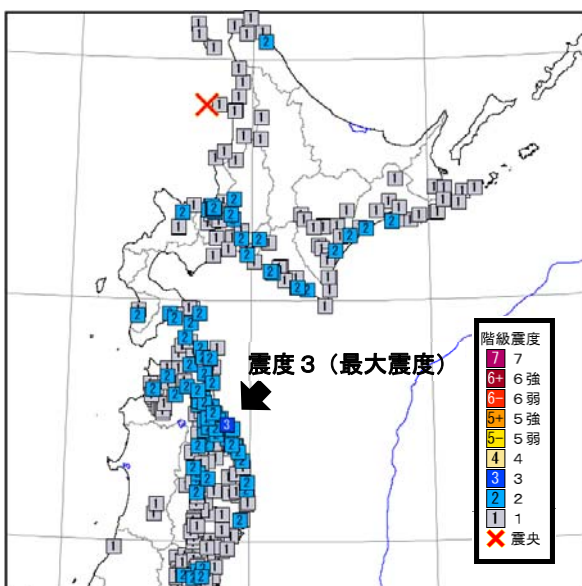
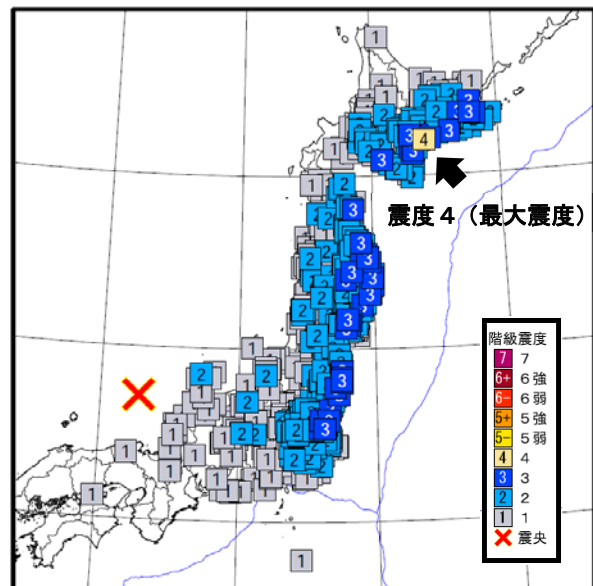


図1 異常震域模式図



北海道北西沖の地震
(2016年1月12日 M6.2, 深さ265km)



京都府沖の地震
(2007年7月16日 M6.7, 深さ374km)

図2 異常震域の例